

ふくしまオーガニック通信

～ 令和7年度 第3号 ～

令和8年3月19日発行 農業総合センター有機農業推進室



【編集・発行】福島県農業総合センター有機農業推進室
福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地
TEL:024-958-1711 FAX:024-958-1730
Email:yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp



↑ ホームページ

～有機農業推進等の取組紹介～

「オーガニックふくしまマルシェ 2025」に内堀知事が登場

【環境保全農業課】

令和7年12月20日、ヨークパーク郡山で有機農産物等のPRイベント「オーガニックふくしまマルシェ2025」を開催しました。

今回は、内堀知事が有機JAS認証の大根を持って登場し、マルシェ内イベント“キッズマルシェ”の参加児童や出展生産者と交流しながら、来場された消費者に対して有機農産物の魅力を伝えました。令和7年度は全4回開催しましたが、最終回にふさわしい盛り上がりでした。マルシェには、各回5経営体ほどが出展し、旬の農産物から加工品に至るまで多種多様な商品が販売されました。

来場されたお客様からは、「同じようなマルシェがあるならまた行きたい」という声も聞かれ、今後の有機農産物の消費拡大と有機農業の認知度向上が期待されます。



内堀知事によるPRイベントの様子



マルシェでの販売の様子

「みんなでチャレンジ!環境保全型農業大会 2025」を開催しました

【環境保全農業課】

令和8年1月16日、アグリカレッジ福島で「みんなでチャレンジ!環境保全型農業大会 2025」を開催しました。

当日は、令和7年度みんなでチャレンジ!環境保全型農業コンテスト受賞者「JA 会津よつば有機の里部会」の大八木部会長と、「社会福祉法人こころん」の関根農場長から事例紹介をいただくとともに、福島大学の二瓶教授よりご講演をいただきました。また、パネラーに受賞者と福島大学の学生2名を迎え、二瓶教授をファシリテーターとして実施したトークセッションでは、質問に対する会場参加者の回答をリアルタイムで集計しながら進められ、「みんなで」環境保全型農業を考える時間となりました。



受賞の様子



トークセッションの様子

「令和7年度環境にやさしい農業セミナー」を開催しました

【農業総合センター有機農業推進室】

令和7年12月5日、農業総合センターで「令和7年度環境にやさしい農業セミナー」を開催しました。

講師の、徳島県で有機稲作指導者として活動されている一般社団法人日本有機農業普及協会 BLOF インストラクターの西田聖氏から、「水稻有機栽培で反収10俵、食味値95点を達成した土づくりの秘訣」をテーマに、BLOF理論に基づく土づくりや、水稻の慣行栽培から有機栽培に移行する技術、多収で高品質な米づくりのポイント等についてご講演いただきました。

農業者や関係機関・団体等合わせて105名が参加し、農業者からは「紹介された技術を実際に取り入れてみたい」との声が多数寄せられました。



BLOF理論に基づく土づくりや水稻栽培技術を紹介する西田聖氏

鮫川村の新たな挑戦・・・オーガニックビレッジを宣言

【県南農林事務所農業振興普及部】

鮫川村は、2004年から大豆を軸とした農業振興を目指す「まめで達人な村づくり事業」に、2008年から循環型農業を推進する「鮫川村バイオマスビレッジ構想」に取り組んでいます。これらの取組をさらに加速させるため、新たな挑戦として2025年11月2日にオーガニックビレッジを宣言しました。村民一丸となって環境保全型農業への取組と有機農業の推進を図り、持続可能な村づくりを目指します。これまで、水稻及びニンジンの有機栽培技術実証ほの設置運営と有機栽培マニュアルの作成、実証ほで収穫されたニンジンと学校給食へ提供しました。今後は、水稻や大豆の技術指導講習会、ミニ家庭菜園運動などの活動を展開していきます。



オーガニックビレッジ宣言の様子

「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で農産局長賞を受賞

【会津農林事務所農業振興普及部】

会津美里町の農業法人「有限会社自然農法無の会」が、「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」(主催:農林水産省)有機農業・環境保全型農業部門で農産局長賞を受賞しました。

このコンクールは、持続可能な農業の確立を目指し意欲的に経営や技術の改善、普及等に取り組む農業者等を表彰するものです。「有限会社自然農法無の会」では、自社で堆肥舎を設置するとともに、紙マルチやアイガモロボ等新しい技術を導入し、中山間地域で持続可能な有機農業を行っている点や、加工品の開発、他地域からの若者の流入促進や大学との連携活動など、多様な取組を行っている点が高く評価されました。



表彰された無の会の代表児島徳夫氏(左)



受賞者取組事例発表の様子

下郷町「スマート農業活用中山間地域等モデル実証事業」の取組

【南会津農林事務所農業振興普及部】

下郷町農業再生協議会は、グリーンな栽培体系を検証するため、「(直進キープ機能のある)自動操舵田植機+乗用型除草機」と「通常の田植機+歩行型除草機」(慣行の栽培体系)の比較実証を行いました。

グリーンな栽培体系では、10a 当たりの田植え時間が2分短縮され、6月下旬時点での欠株率は 3.7%と慣行の 8.3%から半減しました。10a 当たりの除草作業時間も44分から19分と大幅に短縮するとともに、雑草の発生も抑制され、10a 当たりの収量は 278kg から 379kg に向上しました。

この結果を基に「有機農業推進ガイドブック(水稻の機械除草編)」を作成し、有機農業への取組を支援していく予定です。

表 田植機と除草機の違いによる欠株率、雑草乾物重、収量及び収量構成要素

| 田植機+除草機 | 欠株率 (%) | 雑草乾物重 (g/m ²) | 精玄米重 (kg/10a) | 一穂籾数 (粒/穂) | 籾数 (×100粒/m ²) | 千粒重 (g) | 不稔歩合 (%) | 登熟歩合 (%) |
|------------|------------|------------------------------|------------------|---------------|-------------------------------|------------|-------------|-------------|
| 自動操舵+乗用型 | 3.7 | 13.5 | 379 | 107 | 217 | 22.5 | 5.7 | 94.7 |
| 通常+歩行型 | 8.3 | 58.5 | 278 | 98 | 158 | 21.9 | 4.6 | 95.5 |
| (参考)通常+乗用型 | 7.0 | 51.1 | 254 | 91 | 133 | 22.1 | 5.2 | 95.3 |

※欠株率は6/24、雑草乾物重は7/14調査

※精玄米重、千粒重は1.8mm篩別による。(坪刈りによる値)

「会津・南会津地方有機農業推進セミナー」を開催しました!

【会津農林事務所農業振興普及部】

令和7年 11 月 11 日に公立大学法人会津大学講堂において、有機農業や環境にやさしい農業への取組を加速化することを目的に「会津・南会津地方有機農業推進セミナー」を開催しました。

NPO 法人日本有機農業研究会理事の吉田太郎氏からは「なぜ、生物多様性(含む微生物)が豊かになると無農薬・無化学肥料が可能なのか」と題して有機農業のメカニズムや土壌微生物の重要性について、株式会社 DGC テクノロジーチーフリサーチャーの横山和成氏からは「土の豊かさを付加価値に」と題して土壌微生物多様性の評価法について説明していただきました。

会津・南会津地方以外の地域からも申し込みがあり、参加者は有機農業や土壌微生物についての知見を深めていました。



生物多様性について講演する吉田太郎氏



土壌微生物評価法を説明する横山一成氏

浜通りの有機・エコ農産物の消費・拡大の取組

【相双農林事務所双葉農業普及所】

令和8年2月 19 日、檜葉町立あおぞらこども園の協力をいただき、有機米の試食会を開催しました。保護者等に対し、持続可能な食料生産活動としての有機農業の重要性や、有機 JAS 認証制度、檜葉町内での取組等について説明し、道の駅などでも有機農産物が販売されていることを PR しました。また、いわき市、南相馬市においても、有機米試食会や農作業体験会等を開催し、有機農業への理解を深める活動を行いました。

今後は、小売店での販売促進やイベント出品など、多様な世代に向けて有機農業の理解を広げる活動に取り組んでまいります。



有機米試食会の様子(檜葉町)



親子有機米試食会の様子(南相馬市)

～試験研究の実績報告～

3回代かき、湛水移植・深水管理、機械除草の組み合わせによる水田雑草の除草効果

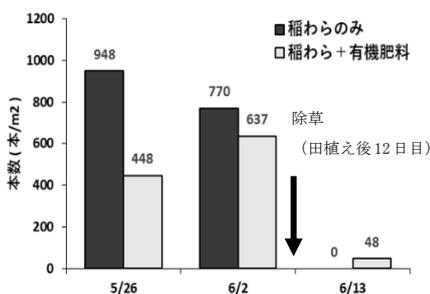
【農業総合センター有機農業推進室】

水稲有機栽培では、収量向上を目指す上で雑草対策が課題となっており、生産現場では、雑草の発生状況に合わせて、様々な除草方法が行われています。

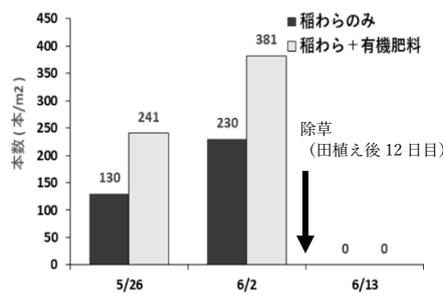
令和7年度は、水田雑草防除に有効と考えられる技術である3回代かき、湛水移植・深水管理、機械除草の組み合わせによる効果を調査しました。その結果、全般的に雑草の発生は少なく、3回実施する予定だった機械除草は1回実施したのみで、コナギ、ホタルイの発生を抑えることができました。



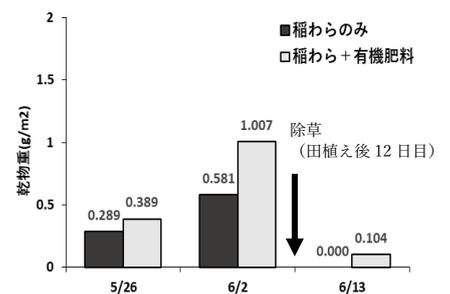
深水管理の様子



コナギ発生本数の推移



ホタルイ発生本数の推移



雑草乾物重の推移

～現地実証ほの実績報告～

水稻有機栽培における晩植によるクログワイの抑草効果と 収量・品質確保の実証

【農業総合センター有機農業推進室】

晩植栽培においてクログワイの発生時期に代かき・移植作業の実施による抑草効果を検証するとともに、玄米の収量・品質について確認しました。

本実証では、6月26日に移植作業を実施したところ、移植前後の代かきと機械除草の実施により、クログワイの発生を抑制することができ、精玄米重で約500kg/10aを確保できました。一方、晩植により移植前に発生したクログワイ等の雑草を土壤中にすき込んだことで、土壤中に養分が供給され、生育後半に倒伏が発生しました。その結果、登熟歩合の低下や青未熟粒・その他未熟粒の発生及び玄米タンパク質の増加が見られました。

表1 収量・玄米品質

| 区分 | 精玄米重 (kg/10a) | 籾数 (粒/穂) (×100粒/m ²) | 千粒重 (g) | 登熟歩合 (%) | 青未熟粒 (%) | その他未熟粒 (%) | タンパク (%) |
|-----|-----------------------------|--|------------|-------------|-------------|---------------|-------------|
| 実証区 | 23.8株/m ² 547 | 95 365 | 22.4 | 72.4 | 3.3 | 16.5 | 6.9 |
| | 18.5株/m ² 499 | 86 333 | 22.3 | 66.6 | 6.9 | 20.9 | 7.1 |
| 慣行区 | 18.5株/m ² 411 | 122 294 | 22.4 | 86.1 | 2.3 | 19.7 | 6.0 |

※精玄米重、千粒重は1.8mm以上。

※精玄米重、千粒重は水分15%換算値。

表2 雑草(クログワイ)の発生量

| 風乾重(g/m ²) | | | |
|------------------------|--------|--------|-------|
| 移植後7日 | 移植後14日 | 移植後21日 | 収穫時 |
| 11.8 | 28.3 | 31.4 | 42.1 |
| 4.7 | 34.9 | 62.7 | 44.7 |
| 11.0 | 13.0 | 38.8 | 141.6 |

エゴマ有機栽培に有効な育苗資材と有機質肥料の検証

【農業総合センター有機農業推進室】

エゴマ有機栽培において、定植苗の大きさの違いによるネキリムシの被害程度や、異なる有機質肥料ごとの生育・収量について検証しました。

今回の試験では、農薬不使用でも、いずれの区もネキリムシの被害が少なく、補植で十分対応でき、70kg/10a以上の収量が確保されました。72穴セルトレイの早播きでは、被害を抑制できましたが、有機JAS適合の育苗培土を多く要するため、経費がかさみ、128穴セルトレイ育苗が補植の労賃を加味してもかかり増し経費は安くなりました。

本実証ほの結果は、12月16日に開催された田村市エゴマ振興協議会の収穫祭において、白石田村市長、協議会会員等35名に報告しました。

表 10a当たりの区ごとの経費(円/10a)

| 区 | 育苗培土代 | 肥料代 | 農薬代 | 補植労賃 | 合計 | かかり増し経費 |
|---------|--------|--------|-------|-------|--------|---------|
| ①72穴早播 | 16,259 | 0 | 0 | 0 | 16,259 | 10,418 |
| ②72穴 | 16,259 | 0 | 0 | 2,027 | 18,286 | 12,445 |
| ③エゴマ油粕 | 7,504 | 0 | 0 | 2,743 | 10,247 | 4,406 |
| ④ニーム核油粕 | 7,504 | 29,150 | 0 | 1,192 | 37,846 | 32,005 |
| ⑤米ぬか | 7,504 | 0 | 0 | 5,962 | 13,466 | 7,625 |
| ⑥無肥料 | 7,504 | 0 | 0 | 7,837 | 15,341 | 9,500 |
| ⑦協議会慣行 | 3,696 | 0 | 2,145 | 0 | 5,841 | 0 |

・元肥は、①～③エゴマ油粕、④ニーム核油粕、⑤⑦米ぬか。追肥は、生育が遅れた⑦のみ実施(エゴマ油粕)。

・育苗は、①5/26播種(25日育苗)、②～⑦6/2播種(18日育苗)、①②72穴セルトレイ、③～⑦128穴セルトレイ。

・育苗培土代は、①②:有機園芸培土165L、③～⑥:有機園芸培土76L、⑦:野菜培土1号76Lで算出。

・肥料代は、ニーム核油粕を全面施肥(100kg/10a)で算出。農薬代は、ネキリエースKを3kg/10aで算出。

・補植労賃は、2026年福島県最低賃金(1,033円/時間)で算出。被害確認・ネキリムシの探索・捕獲時間も含む。

高冷地における水稻紙マルチ栽培の適応性の検証

【会津農林事務所農業振興普及部】

昭和村小野川地区（標高 700m）において、水稻紙マルチ栽培の適応性を検証しました。

移植後2週間程度は気温の低い時期もありましたが、慣行栽培と比べ、生育の遅延はほぼ見られませんでした。高温・干ばつにより出穂期に用水が不足した影響で整粒歩合はやや低くなりましたが、収量は 365kg/10a で目標を上回り、食味値も 85 と良好でした。

収量向上のためには茎数の確保が課題であり、栽植密度等の検討が必要ですが、高標高地区における今後の有機栽培の面積拡大が期待されます。

表 紙マルチ栽培と慣行栽培の収量及び収量構成要素、玄米品質、食味値

| | 精玄米重 (kg/10a) | 一穂粒数 (粒/穂) | 粒数 (×100粒/m ²) | 千粒重 (g) | 不稔歩合 (%) | 登熟歩合 (%) | 整粒歩合 (%) | 食味値 (点) |
|------|------------------|---------------|-------------------------------|------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 紙マルチ | 365 | 66.4 | 186 | 23.0 | 7.0 | 87.2 | 77.9 | 85 |
| 慣行 | 773 | 69.5 | 360 | 24.8 | 4.4 | 89.7 | 82.0 | 81 |

※精玄米重、千粒重は1.8mm篩別による。(坪刈りによる値)

有機 JAS 適合の高分子ポリマー及びマルチムギ利用による にんじんの発芽等への影響の検証

【会津農林事務所農業振興普及部】

露地ににんじんの発芽率向上を目的として、高分子ポリマーの畝への混和処理による土壌水分保持効果と、マルチムギの土壌被覆による土壌表面の固化防止や雑草発生の抑制効果について調査しました。

8月8日にシーダーテープでは種しましたが、その後9月初旬まで降雨のない状態が続いたため、適正量とされる 2~5kg/10a のポリマー土壌混和では、有効株率や収量への効果が確認できませんでした。マルチムギについても、生育初期から高温・干ばつ傾向で十分な根量が確保できず、降雨により病害が蔓延したためマルチとして活用できる状態には至りませんでした。

本年のような極端な気象経過においては、ポリマーの施用方法やマルチムギの栽培方法を工夫する必要があると考えられました。

表 ポリマー施用による有効株率と10a当たり収量

| | 有効株率(%) | 収量(本) | 可販果収量(kg) |
|-----------|---------|--------|-----------|
| 無施用 | 39 | 23,400 | 2,891 |
| 2kg/10a施用 | 27 | 16,200 | 1,907 |
| 5kg/10a施用 | 25 | 15,000 | 1,243 |

※有効株率は、は種24日後調査、発芽後の乾燥による欠株も含む。

※収量は、は種粒数60,000粒に有効株率を乗じて算出。

※可販果収量は、L:250g、M:150g、S:75gとして規格別割合から算出。

液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証

【相双農林事務所双葉農業普及所】

近年、夏季の高温により、水稻有機栽培においても栄養凋落による収量や品質の低下が課題となっていることから、水管理と併せて、出穂前に有機質液肥による追肥を行い、収量維持や品質向上を検証しました。

1回処理では、収量はやや少なくなりましたが、タンパク質含量が低く、食味値も良好だったことから、良食味米の生産につながりました。また、作業面でも追肥作業が1回で済むことから省力的です。一方、2回処理では収量は高まりましたがタンパク質含量が高く、食味値もやや低くなりました。

今後も、管内有機米の収量増加や品質向上に取り組んでまいります。

表 米の品質・収量調査

| | 収量調査 | | 品質調査 | | | | |
|------|------------------|------------|--------------|--------------|-----------|-------------|------------|
| | 精玄米重 (kg/10a) | 千粒重 (g) | タンパク質 (%) | アミロース (%) | 水分 (%) | 脂肪酸度 (%) | 食味値 (点) |
| 1回処理 | 311 | 21.1 | 5.9 | 18.3 | 15.0 | 14.9 | 85 |
| 2回処理 | 341 | 21.3 | 6.4 | 18.7 | 15.1 | 15.6 | 80 |

※供試品種は「コシヒカリ」。

※1回処理は、出穂30日前に全量を1回で追肥。2回処理は、出穂30日前と出穂10日前に半分ずつ2回に分けて追肥。

オクラ有機栽培における自家生産肥料による長期取りの実証

【相双農林事務所双葉農業普及所】

オクラは、病害虫に強く生育が旺盛であり有機栽培で作付しやすい品目ですが、9月頃から肥料不足に伴う草勢の低下により、長期収穫ができない場合があります。そこで、有機JASに適合する米ぬかや魚粉を混和・発酵させた自家肥料と市販の有機質肥料を使用し、収量を比較しました。

元肥と追肥に市販の有機質肥料を使用した試験区3では、生育初期の収穫量が多く、総収穫量も多くなりました。一方、元肥に自家肥料、追肥に自家液肥あるいは市販の有機質肥料を使用した試験区2、3でも、7月下旬から10月下旬までオクラを長期収穫することができ、品質にも大きな差はありませんでした。

市販の有機質肥料の価格が高止まりしているなかで、地域資源を活用した肥培管理は有益な技術と考えられました。

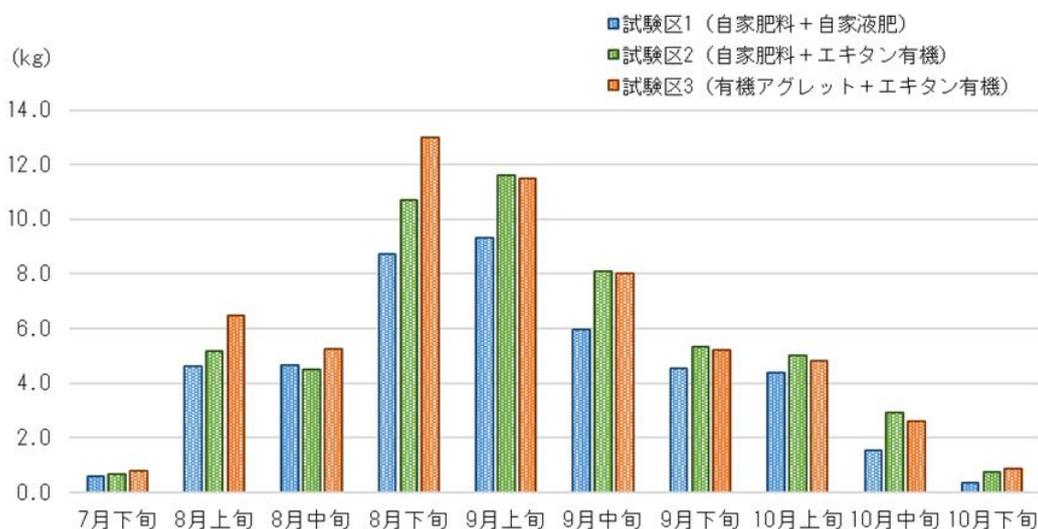


図 オクラの旬別収穫量